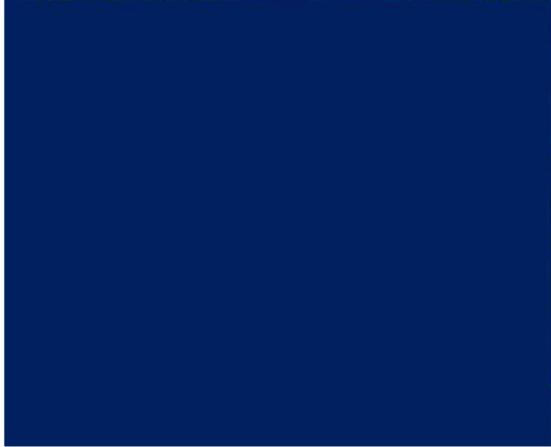




みつかる。  
つながる。  
よくなっていく。

# Annual Report 2023

2023年度 事業報告書



## Vision

YMCAが実現したい世の中の姿

### 互いを認め合い、高め合う 「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

YMCA will work towards building communities in which people will respect and enhance one another to bring out their best. Rich and inspiring communities connected by people's "Positive Net".

---

#### Positive Net

---

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、  
善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。

## Value

YMCAがステークホルダーに提供を約束する価値

### したい何かがみつきり、誰かとつながる。 私がよくなる、かけがえのない場所。

The YMCA is a very special space where you can encounter something,  
connect with someone and transform yourself.

みつかる

Encounter

つながる

Connect

よくなる

transform

## メッセージ

Message from The Tochigi YMCA



代表理事 鷹箸 孝

Takashi Takanohashi



総主事 塩澤 達俊

Tatsutoshi Shiozawa



おかげさまで、とちぎYMCAは無事に2023年度を修めて新年度2024年度を迎えることができました。  
おかわりいただき、お力添えをいただき、お支えいただきましたすべての皆さま、地域内外の皆さま、私どもの青少年育成、地域健全発展、国際理解地球市民の活動をご支援いただきました皆さまとそのご関係者の皆さま、そしてすべてのスタッフとご家族ご関係の皆さまに、心よりの御礼をより強く申し上げます。

《VISION2030》と《とちぎYMCA中期計画》

2023年度は近未来を準備する時でもありました。主な柱は二つで《VISION2030》と《とちぎYMCA中期計画》です。

**VISION  
2030**



**Community  
Wellbeing**



**Meaningful  
Work**



**Just  
World**



**Sustainable  
Planet**

《VISION2030》は世界のすべてのYMCAが歩みを共にするロードマップで、①コミュニティ・ウェルビーイング ②ミーニングフル・ワーク ③サステイナブル・プラネット ④ジャスト・ワールドからなる4つの柱を自分たちの国や社会の状況とビジョンに引き付けて行動を起こすアクションプランの総称です。

わたしたちYMCA福祉会は、地域社会にケア（保育、介護、社会的擁護等々）で参加するグループですので、社会のビジョンと、地域のビジョンと対話をしながら、この《VISION2030》の歩みを始めています。

また、2023年に準備された《とちぎYMCAの中期計画》はYMCAの原点を見つめ未来を展望する特徴があり、運営委員会などの協議と議論な場を設定させます。

わたしたちYMCAの各事業は予め行われていたものではなく、社会のために、誰かのために「それを行う価値がある！」と皆で話し合っ、決めて、取り組まれ、生まれたものです。同じように2024年から「地域における公益的取り組み」をたくさんの方々とともに話題にし、議題にし、実践へ向けて取り組むこととなります。

## YMCAについて

About Tochigi YMCA

YMCAとは、Young Men's Christian Associationの略称で、キリスト教を基盤と1子する非営利公益団体です。世界120の国と地域で、およそ6500万人がYMCAの活動に関わり、日本国内では「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに、地域や人々のニーズに合わせた多様なプログラムを提供しています。

YMCAは1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、同世代の仲間たちの人格的成長や生活改善を願うジョージ・ウィリアムズ（1821～1905）ら12人の青年たちによって組織されました。

日本最初のYMCAは1880年（明治13年）、東京で創設。現在では沖縄から北海道まで、約14万人の会員とともに活動しています。

とちぎYMCAは1978年（昭和23年）に誕生し、公益財団法人、学校法人、社会福祉法人を軸に運営しています。

「栃木の地にもYMCAを！」という声の中、東京YMCAを中心に設立を進めていました。そして1978年、譲渡を受けた「さくらんぼ幼稚園」からとちぎYMCAがスタートしました。同時に設立当初から取り組んでいたのが、英会話クラスや国際交流であり、ユースボランティアリーダーと共に野外活動やチャレンジド活動を実施しました。1993年には日本のYMCA初となる特別養護老人ホーム「マイホームきよはら」を開設し、幅広い年齢層で展開しています。

「マルチジェネレーション活動団体」であり、0歳からシニアの方まであらゆる世代が対象です。活動は多岐にわたり、相互に重なり、関係し合い成り立っています。

**日本のYMCAは、  
全国34都市、200を超える拠点で14万人が活動を行っています。**

About 140,000 Members, 34 YMCAs,  
more than 200 Facilities in Japan

## YMCAの活動領域

子どもの成長に寄り添う

### 子育てと子育て

約300,000人

# 1

YMCAは、多様なサービスやプログラムを通して、子育て・子育ての両面から子ども一人ひとりの成長に寄り添っています。保育やアフタースクールといった安心の場づくり、ウエルネスや語学教育、国際交流といった出会いや成長の機会。YMCAの子育て・子育てのネットワークは全国に広がっています。

若者の力を信じる

### ユース エンパワーメント

約90,000人

# 2

YMCAは、幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の成長を応援しています。夢の実現に必要な知識やスキルの習得にとどまらず、さまざまな体験や出会いの中で人間力を育てていく。YMCAのユースエンパワーメントはこれからも若者の成長を力強く支援していきます。

健やかな生活を支える

### 生活クオリティの 向上

約25,000人

# 3

YMCAは、高齢化社会に対応する事業や活動にも注力しています。健康寿命の延伸や知的好奇心の追求、社会とつながる機会を提供し、いきいきとした健やかな生活を支えます。YMCAは、その人らしく生きることのできるQOL (Quality of Life) の向上に貢献します。

社会貢献の地域基盤となる

### 社会に貢献

# 4

YMCAは、広く社会問題を解決するための活動に取り組んでいます。社会の課題を自分ごととして捉え解決のためのアクションに向かう。日本、そして世界に広がるネットワークと多様な活動領域を活かし、YMCAが地域の活動の基盤となって、社会貢献の力を広げていきます。



# YMCAの全人的成長プログラム

YMCA's Holistic Education Programs in Japan



## YMCA伴走サポート

		幼児	小学生	中高生	学生	社会人	
活動目的	日常生活	<b>1</b> 子どもの成長に寄り添う <b>子育てと子育て</b> チャイルドケア → アフタースクール 発達支援 / 放課後等デイサービス		<b>2</b> 若者の力を信じる <b>ユースエンパワーメント</b> フリースクール・進学指導		<b>3</b> 健やかな生活を支える <b>生活クオリティの向上</b> 高年齢者支援 自立 就学・就労支援	
	学びと習得	インターナショナルスクール → 幼児・小学生英語		高校生事業 → 英語・テクノロジーによる課題解決プログラム		専門学校 → 文化教室 成人英語	
	身体の形成	幼児・小学生ウエルネス → 中高生ウエルネス		成人ウエルネス			
	総合的な実践	幼児・小学生野外 / キャンプ → 中高生野外 / キャンプ					
	課題の解決と献身	地域コミュニティ活動 (国内・海外)					
		<b>4</b> 社会貢献の地域基盤となる <b>社会に貢献</b>		ジュニアリーダー活動 → リーダー活動・学生YMCA		会員活動・ボランティア	

## 2023年度 とちぎYMCA運営方針

policy for 2023



### とちぎYMCA年間聖句

「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張ってのぼる。  
走っても弱ることなく、歩いて疲れぬ。」（イザヤ書40章31節）

「疲れた者は、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。  
休ませてあげよう。」（マタイによる福音書11章28節）

## 活動報告

Activity Report / Community Service

## 地域活動・ボランティア活動 01



### YMCA国際ナショナル・チャリティーラン

YMCA International Charity Run

第18回とちぎYMCA国際ナショナル・チャリティーラン2023を10月22日（日）に道の駅うつのみや ろまんちっく村にぎわい広場を会場に実施しました。メイン競技の「たすきリレー」には26チーム130名が参加しました。今大会では、宇都宮ブリッツェン育成チーム「ブラウ・ブリッツェン」の宇賀神選手がランナーを先導してくださいました。

よさこいグループ「勢や」は、5年ぶり素晴らしいパフォーマンスを披露してくださいました。パフォーマンスと共に踊る参加者には、多くの笑顔がみられました。福祉施設の手作りの品、様々な団体の模擬店、ブースを周ってゲームを楽しむスタンプリナー など、皆様でこのイベントを盛り上げてくださいました。今大会の収益金は、全国YMCA障がい児・者のグループ活動、とちぎYMCAで実施した招待デイキャンプ「東武動物公園」などに全額を使わせていただきました。

### ピンクシャツデー

Pink Shirt Day

2007年2月、ピンクのシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では、呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなりました。

このエピソードはSNS等で70カ国以上に広まっています。カナダでこの出来事があった2月の最終水曜日は「ピンクシャツデー」とよばれるようになり、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日とされています。とちぎYMCAでは、ユースはピンクシャツデーの取り組みとしてリーダートレーニングを行いました。また、さくらんぼ幼稚園、ようとう保育園、青少年活動センタートライ東、子どもの家、ウエルネスプログラム、語学国際事業の中で、ピンクシャツデーを取り上げ、YMCAメンバーの協力を通じて、いじめや差別を自分ごととしてとらえ、地域に発信しました。



### 子どもの貧困撃退 サンタDEラン

Santa De Run

12月17日(日)オリオンスクエアにて、とちぎコミュニティ基金主催『子どもの貧困撃退チャリティー♡サンタdeラン&クリーン』が開催されました。このイベントは、子どもの貧困についてアクションを起こしている県内の団体やボランティアが集まり、実行委員会を組織し、協働してイベントを行い、その収益は県内で活動するとちぎYMCAを含む17のNPOへ届けられます。とちぎYMCAからはユースボランティアリーダー9名と、高校生ボランティアグループつぼみ15名、スタッフ4名が参加いたしました。実行委員会の中でもユースを中心に組織される「若者チーム」では、YMCAに連なる大学生が中心となって8月頃からミーティングを実施し、当日までの広報や企画立案を行いました。以下は参加した大学生のユースボランティアリーダーの感想です。「子どもの貧困を失くすためには多くの人に問題を周知させることが大切だと考え、若者の私たちができることをチーム内で話し合い、自発的に活動を進めることが出来ました。参加者のキラキラした笑顔は一生私の心に残ると思います。」

## 活動報告

Activity Report / Community Service

## 地域活動・ボランティア活動 02

Amazon 欲しい物プロジェクト  
～みんなでサンタクロース

YMCA International Charity Run

Amazonによる社会貢献活動の一つである「みんなで応援」プログラム『Amazon 欲しいものリストプロジェクト』は、2021年11月よりスタートし、今年度も多くのプレゼントがYMCAに届きました。頂いたプレゼントは、こどもに関わる拠点に配布され、こどもたちの豊かな体験のために使用しております。とちぎYMCAを含む全国23YMCAにおいてこのAmazonのキャンペーンに参画しており、多くのこどもたちが室内、野外で十分に体を動かしたり、豊かな学びのときを持ったり、仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができるよう、引き続きご協力ください。皆様のご理解・ご支援を賜りありがとうございます。

2023年度の寄付物品数：46点

使用拠点：ウエルネス事業、野外教育事業、語学教育事業、ひがしやまアトムクラブ、認定こども園さくらんぼ幼稚園、ようとう保育園、子どもの家C・Gブロック、アットホームきよはら、親と子どもの居場所めいめい

高校生ボランティアグループ「つぼみ」  
high school volunteer group "Tsubomi"

2019年に9人の有志の高校生から発足した高校生ボランティアグループつぼみが、2023年度で4年を迎えました。2023年度は特に「つぼみ食堂(子ども食堂)」・「サンタdeラン」の2つに力を入れて取り組むことを目標にスタートしました。つぼみ食堂は年度で8回開催し、毎回20～30食程が提供され、延べ人数536名が来館されました。地域の方や子どもたちがスタンプカードを持参して次回の開催を楽しみに待ってくださる様子も見受けられます。高校生たちは「何か新しいことにチャレンジしてみたい!」「私の居場所を探したい!」と様々な思いを持って、つぼみの活動に参加しています。毎週火曜日(テスト期間を除く)に行われるリーダー会では、自分たち『つぼみ』としてのあり方について話し合い、意見を交わし合いながら活動を進めています。つぼみの大きなテーマである『地域協働の中でみんなの居場所になること』を基に、ワイズメンズクラブの皆さまを始め、様々なご支援を頂きました。レディオベリー『音楽のミナテラスとちぎ』への月に一度の出演も広報に役立てております。



## 高校生ボランティアスクール

volunteer school for high school students

1983年に始まった「高校生ボランティアスクール」は、今回で61回目を迎える“夏休みの高校生”に限定した短期型のボランティアプログラムです。とちぎYMCAがもつ教育・保育・社会福祉分野の施設において、高校生が職業体験をしながら、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきました。今の高校生世代は、コロナ渦によってこの中高生の時期に学校行事などの大切な体験活動を失っていました。「何かしてみたいけれども、その機会がなかった」そんな高校生が106名集まり、10種類のボランティアをひとつ選び経験しました。YMCAは以前から「ユースボランティアリーダー」という存在がありました。今回、初めてボランティア活動をした高校生は、メンバーファーストの観点をもって子ども達や利用者の方々と真剣に向き合い、笑顔になったり、時には一緒に悩みながら語り合う経験によって、大きく成長することができました。次年度は、活動拠点(地域)をさらに増やし、より栃木県内全域において高校生によるボランティア活動が活発化されることを目指していきたく思います。

## 事業報告

Business Report

# 公益財団法人



### 健康教育事業

Wellness Program

健康教育事業、所謂、ウエルネスプログラムです。このプログラムは小さな「できた」による喜びの積み重ねを通して、メンバー一人ひとりの心身の成長が期待できます。現在もさくらんぼ幼稚園からの参加者が過半数を占めるプログラムではありますが、今年度は特に小学生の参加率も上昇しました。また、プログラムによっては「もっとやってみたい」「もっと上手になりたい」という意識のきっかけになり、友だちを誘って練習を始めるメンバーが増えました。

とちぎYMCAのウエルネスプログラムは他者と一緒に取り組むプログラムのため、より一層帰属意識も生まれ、「より楽しむ時間を増やそう」と準備や片付けもメンバーが率先して取り組むようになりました。単なる習い事ではなく、「居場所」としての機能を持つプログラムに変化しはじめた2023年度となりました。

### 野外教育事業

Outdoor Education Program

2023年度のとちぎYMCAの野外教育は、ユースボランティアリーダーの輝きがプログラム価値を底上げしてくれたことと過言ではないこと共に、とちぎYMCAの野外教育プログラムを見直し、基盤を再作成した1年となりました。コロナウイルスが5類に引き下がったこともあり、少しずつ今までの暮らしへと戻していこうとする社会の取り組みがある一方で、ニューノーマルな生活へと移行することも求められている1年だったことから、とちぎYMCAとしてもメンバー、ご家族の皆様の声を聞きながら、社会的ニーズに寄り添いながらプログラムの提供の基盤を見直してまいりました。

子どもたちは、友だちやリーダーと一緒に自然の中でさまざまな活動をすることによって、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきます。「つながり」が希薄化しつつあるこの世の中で、「自然と他者（ヒト）と自分」が密接にかかわっていき、他我を触媒として自我を目覚めていきます。「子どもたちの裏側には社会がある」という言葉をスタッフの共通用語とし、参加申し込みの入り口から体験の中身、報告までの流れを見直し、参加する子どもたち、送り出すご家族、運営するYMCAの3視点から見直すことができた1年となりました。



### 国際教育事業

International Education Program

【国際交流活動】4年ぶりにICEPプログラムが再開しました。2023年度は15名の高校生が来宇し、日本の子どもたちやユースなどと交流を深めました。国際交流キッズキャンプには23名の日本の子どもたち、ユース交流会やICEPボランティアには総勢40名以上の方が関わってくださり、双方にとって有意義な体験をすることが出来ました。

【語学事業】2023年度より、環境ウィークがスタートしました。環境問題について英語クラスで話し合いをもち、自分たちにできることについてポスター作りをしました。英語を単に学ぶだけでなく、社会の問題に目を向け、自分の意見を人に伝えられる力を身につけられるようなカリキュラムとなりました。

【国際教育活動】1月に「持続可能な世界を作るためのSDGsワークショップ」を開催しました。日々の家庭での行動が大切という思いから、小さなお子様がいる家庭でも参加しやすいようにあそび場ブースを設け参加者を募りました。その結果、8割がお子様連れで参加していただきました。

## 事業報告

Business Report

# 公益財団法人



### 支援事業

(アフタースクール：ひがしやまアトムクラブ)

After School of Higashiyama at Ashikaga

2022年度から活動スペースを2棟から3棟に増やし、子どもの受け入れ体制を整えたが、今年度、更なる施設の配置基準の変更があり、2月に2棟の建物の改築、修繕を実施し環境を整えることができました。活動のスペースが広がり、新たに大型サッカーゲームの設置や卓球など活動内容にも幅が広がりました。スタッフの質の向上では放課後児童支援員認定資格講習や資質向上研修、放課後NPOアフタースクール主催研修、足利市主催研修などに積極的に参加し、個々の知識や技術のレベルアップにつなげることができました。また、毎月、公認心理士資格を持つスタッフを中心にケーススタディを実施し、共通理解を深め、スタッフの不安や疑問に対応することができました。更にチームの一員としてスタッフのモチベーションを高めることができました。

### チャレンジド事業

Challenged Program

青年期の余暇利用グループアイスファイヤーの活動に欠かせないプログラムが、調理・外出・カラオケ・ボウリング・チャリティーラン・クリスマス会です。調理実習では、経験を積み重ねるごとに、個々の手際の良さが目立ってきて、メニューのレパートリーも増えてきました。に新たに開通をしたLRTを利用した外出や福祉バス利用での遠出では、往復の時間を車イス利用者と共に過ごせる楽しいひとときになりました。農業体験、科学あそび、ポッチャなどにもチャレンジすることができました。チャリティーランでは「走るの苦手だから参加しない!」との声もあり、準備を活動に取り入れ、ラン以外の参加方法をみつけました。チーム意識、勝ちたい意識、ボランティア意識を持ちながら、当日は全力で参加をしている様子が見られ、メンバーの意識を尊重しながら、寄り添いながら活動を実施することができました。



### 指定管理事業

(宇都宮市青少年活動センター・トライ東)

designated management of TRY EAST

2023年度、新たに取り組んだこととして、主に3つをご紹介します。1つ目は、LINEやホームページに於いて、空き状況が分かるようなシステム変更をしました。1週間から1カ月間の空き状況が見られるようになり、利用者の方がスムーズに予定を立てることができ、時間を有効に使っていただけるようになったかと思います。2つ目は、登録証をお持ちの方を対象とした「トライエンジョイスペース杯トラインピック」の開催です。このイベントでは、ロビーで子どもたちはもとより、登録証をお持ちの皆さまが体を動かしたり、競技を楽しんだりすることができます。最後に、焚き火デーの開催です。火を囲みながら若者たちの語らいの場を設けることで、若者たちが普段とは違った雰囲気の中で交流し、新しい友人を作る機会となりました。今後も定期的に開催出来るようにしていければと思います。

## 事業報告

Business Report

# 公益財団法人 決算状況報告

### ◇未来につながるスタートの年

2023年度のとちぎYMCAは、年間聖句に「主に望みをおく人は新たな力を得(中略)走っても弱ることなく、歩いても疲れない」×「疲れたもの、重荷を負うものは私ものにと来なさい。休ませてあげよう」を掲げて過ごしました。

社会と隣人との事業活動を通じて奉仕するYMCAの行いは御言葉と対峙しながら取り組まれるので、ときに厳しく霊肉ともなる疲れをもたらします。しかし、一方で「希望」を皆で掲げてミッション:使命を果たそうとする利他の営みは、肉体の疲労を補って余りある活力も与えてくれます。

2023年度のとちぎYMCAの事業活動は、まさにそのような成果を残した1年間でした。希望は未来に向けて掲げられました。

2028年のとちぎYMCA50周年を挟む8か年の中期計画のスタート、世界のYMCAとの共同歩調のVision 2030の批准などを、未来型を目指すとちぎYMCAの近未来ロードマップにスタートラインとして据えることができました!

### ◆業績好調の果実を未来に用いる

全般に好調で22年度の不調を跳ね返す成果(活動内容についても、財務的にも)を、「健康教育」「野外教育」「国際教育」「支援事業」「チャレンジド事業」「地域支援事業」「指定管業」など各部で得ることができました(詳しくは各部の活動報告書、メイン資料のTheYMCA、決算表を参照)。

従来型のYMCA公益事業活動(収益事業の指定管業を含む)としては《最終年》に有終の美を修めることができました。

具体的には、これまでの取り組みの充実発展のほかにも、若年層のボランティア活動(高校生G)等が全体の活気をリードしたこと、とちぎYMCA内で事業形態を超えて社会課題意識(社会的擁護と地続きの子ども支援)が共有できたこと、YMCA人材のポテンシャルを法人間連携(出向という形態)で活かしたことなどが挙げられます。

携わるスタッフ、事務等のバックオフィス体制の成長、そしてたくさんの会員サポーターやボランティアのみなさまのお力のおかげと、心より感謝申し上げます。

しかしわたしたちはこの好調を次年度以降も再生産する仕方ではなく、YMCA活動の原点に立ち返り、時代状況や地域の課題、出会う隣人により寄り添える新しい形で活動を展開するために未来へ向け希望のメルクマールを掲げましたので、より本質的でより新しいYMCA展開がされることになるでしょう。SOSO 23年度の果実は、スタッフやボランティア、参加者、支援関係者など、YMCAに連なる、未来で出会うあらゆるステークホルダーのみなさまの幸せのため、地域社会健全発展積立金への繰り越しなど未来発展につながる活用をして参ります。

## 事業別収益



収入

143,205,280

支出

134,522,649

収支差額

8,682,631

## 事業報告

Business Report

## 学校法人 01

## 認定こども園さくらんぼ幼稚園

Sakuranbo kindergarten



## 認定こども園さくらんぼ幼稚園

Sakuranbo kindergarten

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、お泊り保育も4年ぶりに実施、クリスマスパーティー、余興クラブ（保護者有志）の発表、もちつき、全体での礼拝など、ほとんどの行事はコロナ前に戻すことができました。しかし、唯一戻らなかったのが、老人ホーム「マイホームきよはら」訪問でした。スクールバス置き去り防止装置「かくにん君」を導入し、スクールバス利用園児全員がクラクションを押す練習を行いました。

また、保育教諭の不適切保育の見直し研修を学年ごとに、少人数のグループで実施しました。

11月3日（金祝）には「おかえりなさい みんなでワイ・Y・さくらんぼバザー2023」を盛大に開催することができました。おかげさまで好天にも恵まれ、大変多くの皆様にご来場いただき、ゆっくりお話しする機会となりました。久しぶりにYMCAに足を運んでくださった方々も大勢いらして、同窓会のような一面もあり、お楽しみいただくことができた

と実感しています。恒例の焼きそば、カレーライス、うどん、さつま芋スティック、フランクフルトなどたくさんのお店、フリーマーケット、パンの販売、手芸品販売など、たくさんのボランティアの皆様にご協力をいただいた。このバザーを通して約36万円の収益を得ることができ、国際協力募金への寄付、ユース支援、国内の貧困問題、幼稚園の教育環境改善のために使わせていただくことができました。

2023年度に、さくらんぼ幼稚園は創立70周年を迎え、さくらんぼ会（保護者会）さまより記念品として、清住通り側に幼稚園の看板を設置していただいた。11月に「栃木県警察音楽隊」による記念コンサートを行い、「さくらんぼのマーチ」や子どもたちの好きな曲をたくさん演奏していただき、子どもたちは大喜びで歌いながら楽しむことができました。生の楽器の演奏を身近に聞くことができ、子どもたちにとっては貴重な経験になったと思います。70周年記念品として、さくらんぼ幼稚園の体育着をモチーフにしたキーホルダーとさくらんぼ幼稚園オリジナルのクッキーをセットにして配布し、写真を中心とした70周年記念誌も作成しました。

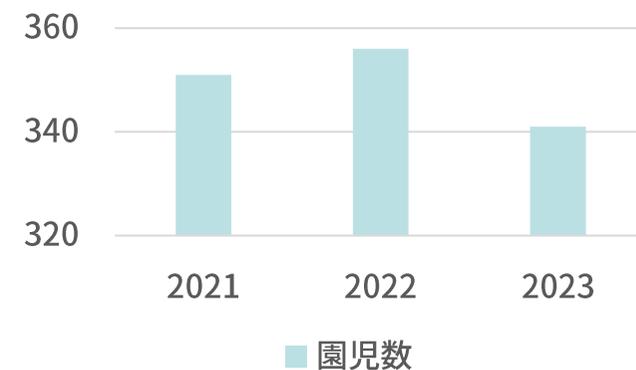


## 年間行事（表）

2023年度園児数			
	2・3号	1号	計
0歳児（ひよこ）	6	0	6
1歳児（りす）	18	0	18
2歳児計	21	25	46
年少計（べんぎん）	32	50	82
年中計（いるか）	44	54	98
年長計（くじら）	31	60	91
全園児合計	152	189	341

## 年度別利用者数推移

## 園児数



## 事業報告

Business Report

## 学校法人 02

## 指定管業 子どもの家（Cブロック）

designated management of after school at block “C”



## 指定管業 子どもの家（Cブロック）

designated management of after school at block “C”

子どもの家Cブロックの指定管理受託1期目（2021～2023年度）が無事に終了し、2期目（2024～2028年度）も継続してより指定を頂くことができました。運営3年目となる2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり保育活動の幅が増え、子どもの家運営におけるさらなる展望が拡がるとともに、3年間で見てきた課題点を見つけ、共有することができました。子どもの家の活動では、通常の保育活動の他に、夏休みのプール活動やNPO団体による移動駄菓子屋、ICEPとの交流会、とちぎYMCAアフタースクール15拠点の交流チャレンジプログラム（ながなわ、けん玉）、YMCAピンクシャツデー、日本YMCA同盟ユース・Amazon協働プログラムのプログラミング講座、チャリティーランへの参加、地域との合同活動など拠点を越えた行事企画や豊かな体験のプログラムの企画を行うことができました。また、運営の質の向上の一環として、ブロック主任者会議を定期的で開催し拠点同士の情報

共有の促進、行政・業界団体・YMCAなどの様々な支援員の研修参加の機会の創出、ICT端末を活用した入退室管理を全拠点導入、全国YMCAアフタースクール事業部会への参加など、支援員の資質向上や業務効率化を図りました。一方、支援員の配置基準を満たす安定的な運営や人材確保、効率的なブロック運営、人材育成、社会資源の活用、地域連携など多くの課題を残しました。2024年度はこれらの課題解決のために研究と実践を多く行い、「こどもまんなか社会」をアフタースクールという視点から向き合っていきます。

## 利用者数推移

## 年間利用人数：延べ9,359名



## 子どもの家（Cブロック）7拠点一覧

戸祭子どもの家・とちのみ会

昭和小子どもの家・わんぱくくらぶ

桜子どもの家さくらクラブ

細谷子どもの家・アドベンチャークラブ

宝木子どもの家・チャイルドクラブ

西が岡子どもの家・どろんこ広場

上戸祭子どもの家・上戸クラブ



## 事業報告

Business Report

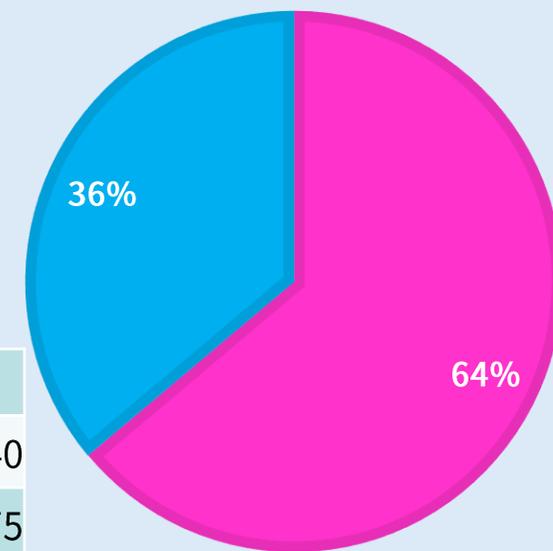
## 学校法人 決算状況報告

コロナウイルスも5類に引き下がり、世界的パンデミックによる異常な生活様式から解放された半面、浮彫となった人間同士のつながりの希薄化は保育の現場でも大いに課題となり、新たな園の体制と、ニューノーマルな生活様式に合わせた園の仕組みを発見する必要がある1年となりました。しかし、そのような中でも、2023年度で70周年を迎えることができ、創立記念を子どもたちと喜び、感動することができた1年でもありました。地域の中には三世代がさくらんぼ幼稚園に通われているご家庭もあり、地域の方々と70年も子ども成長を喜べることに、深いつながりと神様の導きがあったことにより一層の喜びと感謝の気持ちを持ちました。しかしながら、新入園児の募集については、昨今の社会課題が複雑に絡み合っている世の中の影響が、残念ながら芳しくない状況です。3年ぶり前から明確に傾向に変化が見られており、是非は別として深夜に新入園児の保護者が並ばなくなってしまい、定員割れを繰り返しています。それは当園だけでなく、市内全体の傾向であることも分かっていますが、少子化といっても急に減るわけでもなく、理由については推測できるのは、急激に共働き傾向が加速して幼稚園よりも保育のニーズが高まったこと、もう一つは「年少から幼稚園」という流れがさらに1年前倒しとなり、そして、更に1年前倒しとなり5年保育を希望される方が増えたことにあります。地域社会というコミュニティが希薄になってきている昨今、我が子の社会デビューというものに不安を抱えている実態を反映しているものと思われます。さくらんぼ幼稚園は、他園の平均よりも多くの教職員を配置しています。その分、利益は圧迫していますが、上記の傾向に対する答えは教員により良い職場環境を提供し、よい保育を行っていただき、その結果保護者にさくらんぼ幼稚園を選んで頂くことを目指します。

子どもの家に関しては、夏には ICEP との交流会や夏祭り、Amazonで行われているプログラミング教室、台湾の留学生との交流、遠足などが各クラブで行うことができました。また、とちぎ YMCA アフタースクール 15 拠点の交流チャレンジプログラム (ながなわ、けん玉)、YMCA ピンクシャツデーなどYMCA 独自の活動を展開することが出来たました。しかしながら、指導員の採用は困難を極めています。支援員が不足した際に YMCA グループ内の職員を補充応援として体制を整えましたが、指定の開所日数をクリアするにはより一層の採用が求められる一年となりました。

## 教育活動による収支実績

■ さくらんぼ幼稚園 ■ 子どもの家 Cブロック



## 事業別活動収益

認定こども園	315,344,040
さくらんぼ幼稚園	178,041,275
子どもの家	
Cブロック	

収入

493,385,315

支出

474,104,589

収支差額

19,280,726

## 事業報告

Business Report

## 社会福祉法人 01

## 高齢部

elderly welfare



**広域型 特別養護老人ホームマイホームきよはら**  
Special elderly nursing home “ My home Kiyohara”

**地域密着型 特別養護老人ホームマイホームきよはら**  
Special elderly nursing home “ My home Kiyohara”

**短期入所生活介護事業所ショートステイきよはら**  
Short-term residential care facility short stay “Kiyohara”

今年度は、「辞めない、楽しい、採用応募者が来る職場づくり」 介護職員の定着と離職者の生じない組織体制と職場体質を再構築することを方針としました。そのための方策として、  
①学びによる向上と成長を感じながら働くことが出来る職場づくり。

②月次実績管理（事業活動収支等）とともにサービスの質（生み出されているサービスの品質の状態はどうか・質の良いサービスを生み出せる体質が整っているか・質の良いサービスを生み出せる人材を育てているか等）の管理を月次で実施する、

③所属して働くことに価値を見出すことのできる職場・チームづくりを掲げ実施する。を掲げました。

総じて、職員全体で意識を向けるきっかけとなりましたが、日々の業務の忙しさやイレギュラーな対応、新規で取り組み始めたことが多いため、それぞれに課題を残しています。

しかし、方針に対する意識的な取り組みが、まだ見えていなかった課題の発掘につながり、より質の高い介護への道筋がみえてきました。この課題も成果ととらえ、2024年度も介護職員が働きやすい環境を整えることに努め、より質の高い介護と利用者様が気持ちよく生活できる環境を整えていきます。



## 【広域・ショートステイ】

## 1日の平均利用者数と入居稼働率

項目	2022年度実績	2023年度計画	2023年度実績
広域（定員 60名）			
1日当たりの平均利用者数	58.2名	59.0名	58.9名
入居稼働率	97.0%	98.3%	98.2%
ショートステイ（定員4名+特養の空床利用）			
1日当たりの平均利用者数	3.3名	3.5名	2.2名
特養・ショートステイ（定員 合計64名）			
1日当たりの平均利用者数	61.5名	62.5名	61.1名
入居稼働率	96.1%	97.6%	95.5%

## 【密着】 1日の平均利用者数と入居稼働率

項目	2022年度実績	2023年度計画	2023年度実績
密着（定員 29名）			
1日当たりの平均利用者数	28.6名	28.5名	28.5名
入居稼働率	98.6%	98.2%	98.3%

事業報告  
Business Report

高齢部  
elderly welfare

社会福祉法人 01



通所介護事業所デイホームきよはら

今年度は、①地域に必要とされるデイサービスを目指すとともに、困難事例を積極的に受け入れることのできる介護のプロ集団を目指す。②在宅生活が一日でも長く継続いただける支援の提供。③定期巡回との連携・連動を方針とし、デイサービスの提供をしてきました。

総じて、定期巡回との連携、連動によって利用者様には安心するという声をもらうことができました。更に職員の介護スキルに関する苦手の克服することを目指し、職員研修の実施や、職員へのヒアリング、OJTなどを通して職員一人ひとりのスキル向上につながりました。2024年度もより一層技術の向上と継続的な支援をすすめていきます。

項目	2022年度実績	2023年度計画	2023年度実績
1日当たりの平均利用者数 (定員40名)	22.0名	24.0名	22.1名

居宅介護支援事業所支援センターきよはら

項目	2022年度実績	2023年度計画	2023年度実績
担当件数 (要介護)	131件/月	目標 138件/月	123件/月
特定事業所加算III	特定事業所加算II 1件あたり 407単位加算	特定事業所加算II 1件あたり 407単位加算	特定事業所加算II 1件あたり 407単位加算
初回加算	71件	目標：30件	59件
退院退所加算	28件	目標：15件	13件
ターミナルケア マネジメント加算	2件	目標：5件	4件
通院時情報連携加算 (50単位)	10件	目標：10件	14件

地域包括支援センター清原 ※委託

項目	2022年度実績	2023年度計画	2023年度実績
相談件数	530件 (高齢者：497件) (その他：33件)	600件	606件 (高齢者：567件) (その他：39件)
介護予防ケアマネジメント支援 件数 (要支援プラン)	直営 1927 委託 772	直営 1930 委託 760	直営1275 委託1570

定期巡回随時対応型訪問介護看護  
コミュニティケア・イースト

項目	2022年度実績	2023年度計画	2023年度実績
登録利用者数	28.4名	37.0名	29.0名
職員：利用者比	1：2.8	1：3	1：2.5



## 事業報告

Business Report

## 社会福祉法人 02

## 保育部・子ども部

ようとう保育園

Yoto nursery school



## ようとう保育園

Yoto nursery school

4月新入園児22名と新採用の保育士1名をお迎えし、園児110名で2023年度がスタートしました。慣らし保育が終了し子どもたちも保護者の皆さまも安心して園生活が送れるようになり、初めての大きな行事、6月19日（土）の運動会は『笑顔あふれる みんなで楽しい運動会！～全員集合～』のテーマのもと盛大に執り行われました。例年通り、公益財団法人とちぎYMCAが委託管理をしている、青少年活動センタートライ東の体育館で、文字通り、園児、職員、保護者の皆さま、卒園児やご兄弟、祖父母の皆さま全員集合、すべての方が一競技必ず参加型とし、しっかりと汗を流し活気が溢れていました。2歳児～5歳児、それぞれの発達や成長に見合った競技で、掛け声をかけながら心をついに動きを合わせる年中児のパラバルーンは毎年恒例になっており会場が一層華やかな雰囲気になりました。7月21日（金）の1歳児、25日（火）の0歳児保育参観は、運動会の代わりに親子がふれあう活動を盛り込み、日常の保育活動や給食時の様子を見ていただきました。「我が子がとっても自由人だということも改めてよくわかり、楽しく過ごさせていただき感謝です」「保育士さんお仕事が体力仕事だなと心の中で脱帽しました」

「ごはんを食べるのも家より上手でした」「ご飯の量なども大変参考になった」等、園生活に安心感を覚えたり、労いの言葉をいただき、明日の保育の活力となりました。この夏は熱中症に配慮しながらのプールあそび、水あそびとなりましたが、日頃の戸外あそびで培った体力で酷暑を乗り越えることができました。8月26日（土）には保護者会主催の夕涼み会が4年ぶりに幼児組一同に介しての開催となり、クラス毎のおみこし担ぎは暑い夏をさらに熱くさせました。秋（10、11月）は年中、年長児は遠足や食育体験遠足（りんごのもぎ取り体験）、世代間交流ということで同法人のマイホームきよはらを訪問。窓越しではありましたが入居者の皆さまに歌を披露する等、社会体験活動からの学びの時間が充実しました。12月22日（金）は作新学院大学吹奏楽部の有志メンバーをお招きして、クリスマス会が行われました。思いのほか迫力のある生演奏に初めは戸惑っていた子どもたちでしたが、なじみのあるクリスマスソングと一緒に歌ったり、ディズニーソングに体を揺らしたり、いつもと一味違った会となりました。3月23日（土）雪が舞う中、卒園証書授与式が行われ、24名が市内外14校へ羽ばたいていきました。

## 園児数（クラス別：月単位）

クラス	年齢	定員	4月 新入	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
つくし	0歳	9	8	8	8	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10
たんぼぼ	1歳	18	9	16	17	18	17	18	18	17	18	18	18	18	18
つばめ	2歳	22	0	18	18	17	18	18	19	19	18	18	18	18	18
うぐいす	3歳	23	4	22	23	22	23	22	22	22	22	22	22	22	22
ふじ	4歳	24	1	22	22	22	21	21	22	22	23	23	23	23	23
さくら	5歳	24	0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
合計		120	22	110	112	112	112	114	115	114	115	115	115	115	115

## 事業報告

Business Report

## 社会福祉法人 03

## 保育部・子ども部

指定管業 子どもの家 (Gブロック)

designated management of after school at block "G"



## 指定管業 子どもの家 (Gブロック)

designated management of after school at block "G"

子どもの家Gブロックの指定管理受託1期目（2021～2023年度）が無事に終了し、2期目（2024～2028年度）も継続してより指定を頂くことができました。運営3年目となる2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり保育活動の幅が増え、子どもの家運営におけるさらなる展望が拡がるとともに、3年間で見えてきた課題点を見つけ、共有することができました。子どもの家の活動では、通常の保育活動の他に、夏休みのプール活動やNPO団体による移動駄菓子屋、瑞穂野地区子どもの家の3拠点合同もちつき大会、盛岡YMCAのアフタースクールとのオンライン交流、とちぎYMCAアフタースクール15拠点の交流チャレンジプログラム（ながなわ、けん玉）、YMCAピンクシャツデー、日本YMCA同盟ユース・Amazon協働プログラムのプログラミング講座、星の杜中学校・高等学校のイベント参加（オープンスクール）、JCI主催のトワイライトフェスin飛山の参画など、拠点を越えた行事企画や、

豊かな体験のプログラムの企画を行うことができるようになりました。また、運営の質の向上の一環として、ブロック主任者会議を定期的開催し拠点同士の情報共有の促進、行政・業界団体・YMCAなどの様々な支援員の研修参加の機会の創出、ICT端末を活用した入退室管理を全拠点導入、全国YMCAアフタースクール事業部会への参加など、支援員の資質向上や業務効率化を図りました。一方、支援員の配置基準を満たす安定的な運営や人材確保、効率的なブロック運営、人材育成、社会資源の活用、地域連携など多くの課題を残しました。2024年度はこれらの課題解決のために研究と実践を多く行い、「こどもまんなか社会」をアフタースクールという視点から向き合っていきます。

## 子どもの家 (Gブロック) 7拠点一覧

清原中央子どもの家・フレンズクラブ

清原南子どもの家・スマイルクラブ

清原東子どもの家・イーストクラブ

瑞穂野北子どもの家・瑞北めだかつ子クラブ

瑞穂野南子どもの家・みずほのぼぷらクラブ

瑞穂台子どもの家・みず台クラブ

ゆいの杜子どもの家・クローバークラブ

## 利用者数推移 (グラフ)

年間利用人数：延べ8500名



—●—人数



## 事業報告

Business Report

## 社会福祉法人 04

## 子ども部

Child-care

## 委託事業

(親子の居場所 めいめい)

child care and parenting support “MEIMEI”

宇都宮東YMCAの移転に伴い、めいめいも1月より峰3丁目に臨時的に居場所を移転した。同時に遊び、学習、食事などの居場所のルールを子どもたちと一緒に考え、誰もが過ごしやすい居場所づくりに努めた。体験、経験を提供する支援では、季節にあった行事として夏祭り、ハロウィーン、クリスマス、初詣、豆まきなどに加え、サンタdeランから寄付を頂き、デイキャンプを実施(一部の保護者も参加)することができた。更に宇都宮ブリッツェンの支援で自転車競技観戦の体験ができ、体験・経験の幅を増やすことができました。また、親への支援では、少しずつではあるが、親との信頼が強まってきており、それぞれが抱えている問題をスタッフに相談する機会が増えてきた。個別の対応が求められる、スタッフだけでは対応できない事案は行政からのアドバイスを受け、他の支援につなげることができた。今後、様々な人、団体、モノとのつながりの必要性を改めて実感させられました。



### 要支援児童健全育成事業/子どもの居場所 もうひとつの家 アットホームきよはら ※委託

Place where someone belong for children at Kiyohara

子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所として、食事、入浴、洗濯など必要な支援はほぼできているが、個々に不足している物品や支援などは充分ではありませんでした。今後、迅速に察知し支援することに努めていきたいです。また、個別の支援として、情緒が不安定な子どもに対しての接し方など難しい面がありました。一つ一つ丁寧に対応していくことが望まれ、困難な事案は行政と話し合いながら進めることができました。体験・経験を提供する支援では、3月に企業から支援を頂き、宇都宮ブレックスの試合観戦(一部の親も参加)を体験することができ、喜びを共有することができました。

保護者支援では、保護者とのかかわる時間が少ないため(主に送迎時)、保護者とのコミュニケーションが不足しており、ニーズの把握が難しい状況がありました。今後の課題として、家庭での様子や保護者との関係などを把握するため、どの様に保護者とかかわっていくかを考えていきたいと思います。



## 事業報告

Business Report

# 社会福祉法人 決算状況報告

福祉医療機構によれば、全国の社会福祉法人全体の35.7%が赤字とされ（2022年度決算）、サービス活動増減差額比率も毎年悪化の一途です。

そのような中でも6割の法人は黒字で、スタッフの賃金改善（処遇改善加算の取得）、安定採用～定着～育成を達成して良質なサービスを提供と財務健全のバランスをとっています。

わたしたちの目指すべき姿も当然後者ですので、その観点から事業活動と決算実績を総括したいと思います（詳細は各報告書をご覧ください）。

法人全体の当期活動増減差額（介護事業、保育事業、子ども支援事業等の全体）で54万円のマイナス（前年1,200万円のプラス）で、残念ながら全国3分の1の赤字法人に組みました。

業績向上と維持継続を達成できた部門がある一方、収益の減少と経費の増額が影響した部門があります。毎年、弱い部門を強い部門がカバーして全体が強くなるよう事業推進することがわたしたちの事業展開のパターンですので、苦戦の要因と課題がすでに明らかにされているので、2024年度は改善の策の成果をご報告できると思います。

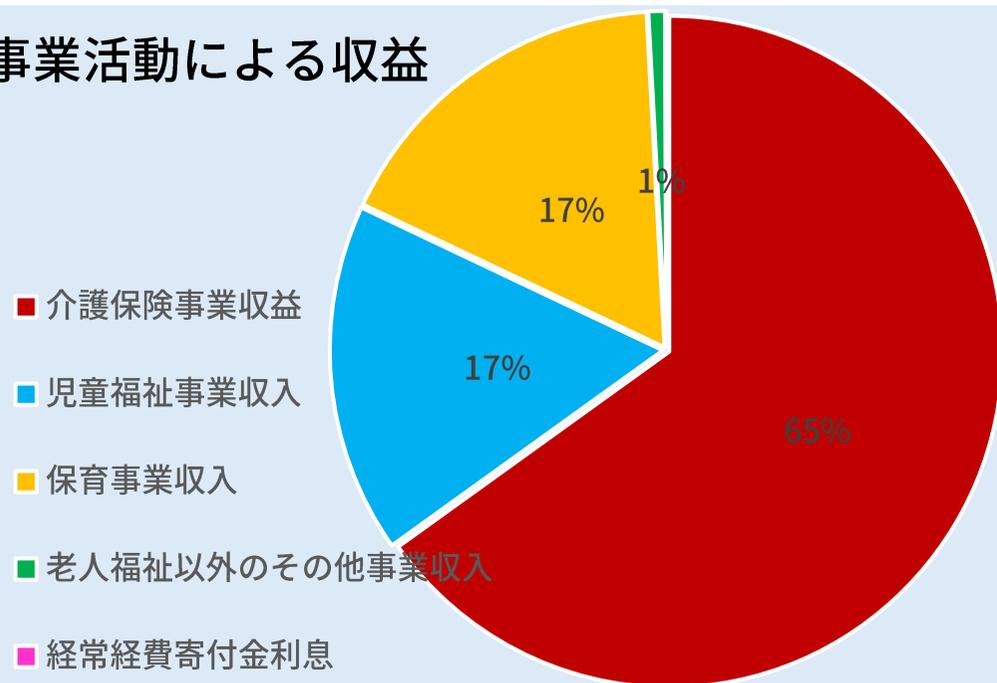
いっぽう、事業内容については2024年度以降の更なる展望につながる体制と方策が確保できました。

特に、保育事業（国が進める保育の新施策『だれでも保育園』のモデル事業実施）と子ども支援事業（親と子どもの居場所めいめいの利用者定着と社会機能の発揮など）は先駆的挑戦が顕著で、財務的果実とは別にとちぎYMCAの使命の実践とプレゼンスを表現することができました。

介護事業においても現在の社会的最大課題である人材難・人手不足をよそに安定した定着率と紹介採用など、働きやすい職場作りに寄与が大でした。さらには、介護事業部のスタッフが指定管業（清原地区・瑞穂野地区を受託）の放課後児童同クラブ支援員不足を助っ人でカバーするなど、法人の一体感・チームワーク醸成にも寄与しました。

わたしたちYMCAの強みは、複数法人（公益財団法人、学校法人、社会福祉法人）と、多角的事業展開であり多角化と多機能化が標準の形態です。今後は2023年度のように不振の補填といった位置づけに「事業ポートフォリオ」の多角化と多機能化を用いるのではなく、次の一手につながる選択と集中をより積極的に進めるために活かし、法人の強みをさらに伸ばして、6割を超える黒字法人に組み、更に良質に発展できるよう努めてまいります。

## 事業活動による収益



## 事業別収益

介護保険事業収益	631,991,167
児童福祉事業収益	163,614,039
保育事業収益	166,409,871
老人福祉以外のその他事業収益	7,863,000
経常経費寄付金収益	460,038

# 概況・統計

Statistics and Association Overview

## 創立

Founding

とちぎYMCA

日本YMCA

世界YMCA

**46**年

(1978-2024)

**144**年

(1880-2024)

**180**年

(1844-2024)



- 維持会員 78名
- プログラム会員 590名
- ボランティアリーダー 98名



- 公益財団法人 46名
- 学校法人 124名
- 社会福祉法人 245名

## 維持会員

Maintaining Members

(敬称略・順不同)

花田瞳、久家康雄、阿久津啓司、藤田哲夫、諏訪治男、山崎敦子、矢部万紗人、大久保知宏、鷹箸孝、布川武男、齋藤仁、牧田羊、増山雄、伊澤良則、南部利行、粕田晴之、宇都宮乳業(株)(代表取締役: 福田隆男)、並木信一、金田敏雄、山田公平、大村洋永、田上中、田上徳子、久保孝弘、五味渕明美、佐藤隆久、持田二郎、足利市民ｸﾘｽﾏｽ実行委員( 関谷慶太・羽山信輝)、福本知恵子、江口健司、中村俊幸、増山律子、本多哲夫、岩村建設(株)、(株)アイケーコーポレーション、種ヶ島和洋、田巻秀樹、大木一俊法律事務所、井口美代子、谷津行男、丸山孝、上野順一郎、上野すみ子、渡部静子、伊澤智昭、田代富夫、大浦智子、伊藤貴子、中川哲夫、丹羽芳雄、(有)高橋平版社、長谷範子、横嶋依里子、(株)田上財務経営センター、川上聖子、星紀彦、金澤林子、石飛雅代、鈴木伊知郎、山口俊一、岡田孝司、中澤堅次、里村美奈、宮下博行、鈴木保江、河野順子、田村修也、村田榮、原田明子、張ウェリ(MATERNA WELLI)、藤生強、阿久津ユリ子、秋田正人、高村博、羽山弘一、松本法判、久家康雄

## 拠点数

centers

**24**拠点

(2024年3月時点)

## プログラム参加者数

centers

約**3,413**名

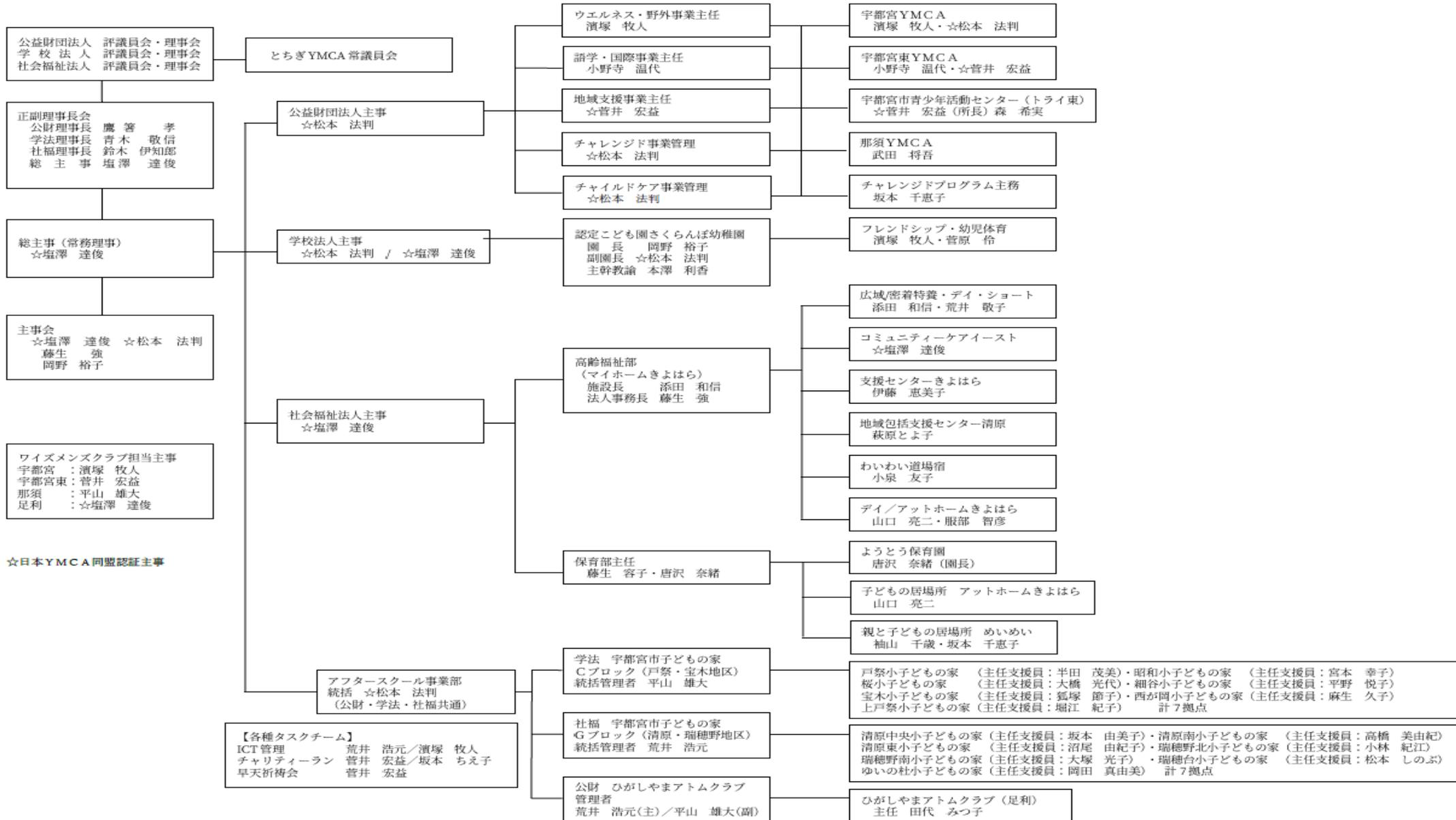
(2024年3月時点)

- 野外教育・・・941名
- 健康教育・・・203名
- 語学・国際教育・・・324名
- 幼稚園園児・・・341名
- 保育園園児・・・115名
- 学童保育・・・1489名
- など



# 2023年度組織体制

## Organization Structure



☆日本YMCA同盟認証主事

## とちぎYMCA役員・委員報告 (順不同、敬称略)

Board and Committee Members

### 公益財団法人とちぎYMCA

【理事】 鷹箸孝 岡田孝司 中川哲夫 本多啓夫 鈴木伊知郎 塩澤達俊

【監事】 大久保知宏 長谷範子

【評議員】 青木敬信 伊藤貴子 岡野裕子 南部利行 中村俊幸 安井武雄 矢部真人  
上野順一郎 國吉真理子 河野順子 菅谷淳 田村修也 田上中 羽山弘一

### 学校法人宇都宮YMCA学園

【理事】 青木敬信 上野順一郎 倉田明男 長谷範子 岡野裕子 塩澤達俊

【監事】 鷹箸孝 井口美代子

【評議員】 有村秀人 井上智美 大久保知宏 熊本泰久 波多野伸 里村美奈 寺内裕実  
森理恵子 鳴澤宏充 金田敏雄 長尾宏美 松本法判

### 社会福祉法人とちぎYMCAとちぎ福祉会

【理事】 鈴木伊知郎 上野順一郎 大久保知宏 金澤 林子 古山滋美 中村俊幸  
七井千恵子 藤田昭子 山田公平 塩澤達俊

【監事】 石飛雅代 鷹箸孝

【評議員】 今井美静 薄久保博子 金田美穂 川田浩也 菊池孝治 齋藤康通 斎藤要士  
高橋義男 南部利行 山口俊一 山口佳子



みつかる。つながる。よくなっていく。